

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

平成26年度愛知県「青少年防災キャンプ推進事業」

愛知県教育委員会

【事業のポイント】

- 参加者が避難所体験をし、地域の絆を構築する。
- 地域・家庭・学校・行政(防災部局・教育委員会)などの多様な機関の連携・協働で実施する。
- ジュニアリーダー、ボーイスカウト、中学生などを対象に避難所でのリーダー育成のためのプログラムを取り



避難所運営講習～中学生がHUGを实

1. 企画

(1) 事業実施の背景

愛知県は、東海地震の地震防災対策強化地域、東南海、南海地震に係る地震防災対策推進地域に指定されている市町村を多く抱え、過去に内陸型地震である濃尾地震、三河地震による広域に甚大な被害を受けた地域である。巨大地震発生時には、最大380,000棟の建物被害、23,000人の死者数を想定しており、揺れの他、津波、液状化、浸水、急傾斜地崩壊等、地域の実情に即した防災・減災対策は市町村の大きな課題となっている。愛知県でも全県一斉シェイクアウト訓練を行うなどして、人々の防災に対する意識は少しずつ高まっていると考えられる。

しかし、地域住民を対象とした防災教育を行っている市町村は8割、地域住民の連携を促す防災事業を行っている市町村は6割5分、避難所生活の体験などを実施している市町村はまだ3割にすぎず、体験型の防災教育や地域の連携を構築するための防災事業は不十分である。

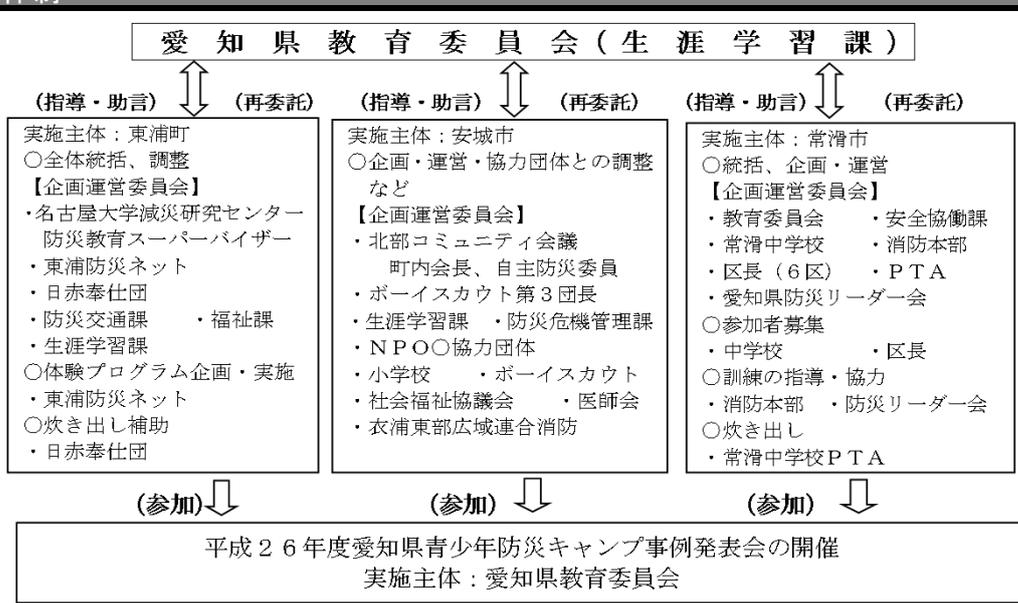
(2) わらい

愛知県教育委員会では、平成24・25年度防災キャンプ推進事業において、計5地区で、家庭・地域・学校の連携・協働により、次代を担う青少年の防災教育及び地域コミュニティの再生、世代を超えた絆づくりを推進した。

この成果を踏まえて、平成26年度は、防災キャンプ参加者が避難所体験をし、地域の絆を構築するだけでなく、避難所でのリーダー育成のためのプログラムを取り入れたモデル事業を、新たな3地区で実施し、その成果を県内全域に広めるための事例発表会を開催する。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2)開催実績	
月 日	内 容
4月上旬	〈安城市〉事業日程の調整及び運営体制の検討
4月11日(金)	〈東浦町〉事業日程の調整及び運営体制の検討
4月25日(金)	〈常滑市〉第1回防災キャンプ企画運営委員会(事業内容の検討、スケジュール検討)
5月28日(水)	〈東浦町〉防災キャンプ第1回企画運営委員会
5月29日(木)	〈安城市〉第1回安城市防災キャンプ企画運営委員会
6月10日(火)	〈常滑市〉第2回防災キャンプ企画運営委員会(事業内容の検討、役割分担決定等)
6月17日(火)	〈安城市〉第2回安城市防災キャンプ企画運営委員会
7月9日(水)	〈常滑市〉第3回防災キャンプ企画運営委員会(事業実施に向けた最終調整等)
7月5日(土)	〈安城市〉全体会
7月12日(土)	〈安城市〉防災教育講演会
7月16日(水)	〈東浦町〉防災キャンプ第2回企画運営委員会
8月6日(水) ～7日(木)	〈常滑市〉防災キャンプ
8月18日(月)	〈安城市〉第3回安城市防災キャンプ企画運営委員会
8月23日(土) ～24日(日)	〈安城市〉安城市防災キャンプ(地域防災訓練)
8月25日(月)	〈東浦町〉防災キャンプ第3回企画運営委員会
9月6日(土)	〈東浦町〉防災キャンプ事前研修会(説明会)
9月20日(土) ～21日(日)	〈東浦町〉東浦町防災キャンプ
9月24日(水)	〈安城市〉第4回安城市防災キャンプ企画運営委員会
10月23日(木)	〈東浦町〉防災キャンプ第4回企画運営委員会
1月23日(金)	平成26年度愛知県青少年防災キャンプ事例発表会

3. 防災キャンプ実施概要

防災キャンププログラム1	
【東浦町防災キャンプ】(東浦町へ再委託)	
活動趣旨	東南海・南海地震への備え及び東海豪雨経験地域における災害の影響について学ぶとともに、日常の防災意識の向上を図るための学習プログラムを取り入れることにより災害に対する備えや知識を住民同士で共有し協働意識を養う。
実施日	平成26年9月20日(土)～21日(日)
実施場所	東浦町文化センター
参加範囲	東浦町内在住の家族
参加人数	20日 71人(児童24人、保護者11人、企画運営委員等従事者36人) 21日 59人(児童24人、保護者12人、企画運営委員等従事者23人)
プログラム	
日 時	プログラム
9月6日(土) 13:30～15:00	事前研修会(説明会) ・大学講師の講話【名古屋大学減災連携研究センター近藤ひろ子氏】 ・日赤及び防災ネットの紹介【日赤・防災ネット】 ・注意事項、意図、持ち物、事前課題等の説明。【日赤・防災ネット・生涯学習課】
9月20日(土) 14:00	開会式 オリエンテーション 開催にあたっての注意事項や意図の説明【生涯学習課】
14:10	間仕切り設営 災害用トイレ組立 家族またはグループごとに設営。設営方法や活用法について学ぶ。【防災ネット】
15:10	家の中の安全対策 災害についての基礎知識とその対策方法について学ぶ。 自宅内の防災対策について検証する。【防災ネット】
17:00	炊き出し訓練・夕食 ハイゼックス使用して炊く。ご飯と肉じゃが。【日赤】

19:00	非常持ち出し訓練 備蓄品と持ち出し品の違いや、実際に持ち出せる量等についてゲームを通じて学ぶ。
20:15	地震に関する講話 東日本大震災を体験した方談からの体験談を聞き、防災への意識を高める。 【環境課職員 水野氏】
21:00	清潔保持訓練・就寝準備 ホットタオルを作り、体を拭く。【日赤】 避難空間を体験する（ダンボールを使用）。
22:00	消灯
9月21日（日）	
6:30	起床 ラジオ体操、荷物整理、間仕切り撤去
7:00	朝食 大釜にお湯沸かす。【防災ネット】配給品と同等のもの（パン、粉末スープ）。
8:30	町を散策して防災を知る 東海豪雨の際の話や被害状況の写真等を見て学習し、その後、町内の堤防やポンプ場等を実際に見て歩き、防災を身近に実感する。【防災ネット】 ポンプ場を実際に稼働させ見学する。【土木課職員】
10:00	大学講師による講評 大学講師から防災キャンプでの成果や重要点などをお話いただく。【名古屋大学減災連携研究センター近藤ひろ子氏】
10:30	炊き出し訓練・昼食 ハンソリで味噌汁作り（具等は参加者が切る）。【日赤】 空き缶でご飯を炊く。【防災ネット】
13:00	まとめ・発表 防災キャンプに関するアンケート実施（知識や意識等） 家族・グループごとに体験についてまとめ、発表する。
14:00	閉会式、解散

防災キャンププログラム2	
【安城市防災キャンプ ～地域と一緒に防災教育～】(安城市へ再委託)	
活動趣旨	近い将来発生するであろう東海・東南海地震において、安城市では震度6強が予測されている中で、子どもたちが避難所生活を始めとする多彩なプログラムの防災キャンプを体験することにより、防災意識の向上を図る。また、地元の防災訓練に組み込むことにより、地域の絆づくりを推進させる。
実施日	平成26年7月12日(土) 防災教育講演会 平成26年8月23日(土)～平成26年8月24日(日)
実施場所	安城北部小学校・北部公民館
参加範囲	北部小学校児童及びその保護者と地域住民
参加人数	425人(北部小学校児童20名・保護者7名・ボーイスカウト21名、地元中学生26名、地域住民351名)
プログラム	
日 時	プログラム
7月12日(土) 17:00～18:30	防災教育講演会（北部公民館会議室） 講師：末永正志氏（元 釜石市消防防災課長） 釜石市での防災教育の取り組み、東日本大震災の教訓、地域コミュニティの重要性についての講話。 防災キャンプ参加者及び地域住民・役員の方々130名が参
8月23日(土)	
13:00	避難訓練（避難所開設） 各組長に引率されて地域住民と一緒に避難するとともに避難者名簿に登録し、全体のオリエンテーションに参加。
14:30	夕食準備 今夜の避難食となるハイゼックス作りを体験。また、中学生ボランティアは食料班として一般避難者用のハイゼックスを大量に準備。
15:00	水難防止訓練 講師：水難学会（指導員3名） 実際に溺れたときの対処方法を学ぶプログラム。座学と学校プールでの実地訓練を予定していたが、悪天候（雨と雷）のため座学のみとなった。

17:00	災害時医療の講話 講師：安城市医師会（医療関係者4名） 「災害時の医療とトリアージ」「災害時の医療救護体制」「熱中症」など、実際の医療関係者の講話により医療面からの防災意識の向上を図った。
18:00	夕食 各種具材が手配できたと仮定して、地域防災の食料班と中学生ボランティアが協力してハイゼックス米と汁物を用意した。
19:00	災害図上訓練（DIG） 指導：NPOコミュニティサポーターほっぷ 8人程度のグループに分けて実施。子どもたちの目線で、自分たちのまちの危険箇所や安全な場所を確認して防災対策を考えた。
20:00	ロープワーク指導 指導：安城ボーイスカウト第3団 非常時に役立つ技法を習得するため、ボーイスカウトのリーダー・団員によるロープワーク研修を実施した。
21:00	夜間移動訓練 暗闇での移動体験。避難所間（学校から公民館）の移動を行う予定であったが、雨天のため施設内で実施。暗闇の中、細い紐を頼りに障害物を避けて移動し
21:30	避難所宿泊体験 事務局が用意した簡易ロールマット、ダンボール、ガムテープを利用して各参加者が寝床を設置。（ボーイスカウトが設置したテントでの宿泊体験あり） なお、プログラムの関係で、防災キャンプ参加者は公民館で、地域参加者は小学校体育館での宿泊体験とした。
8月24日（日）	
6:00	起床 参加者の健康状態を確認後、ボーイスカウトが中心となってラジオ体操を実施
7:00	朝食 非常食として保存パンと水を配布。また、一部食材の配給があったとして、ボーイスカウトに卓上コンロと鍋でお米を炊いてもらった。
8:00	地域全体のふりかえり これまでのプログラムを振り返り、防災各班長、保護者、子どもに意見・感想を述べてもらい、課題などを共有した。
9:00	一般防災訓練（体験型講座） 地元防災組織をはじめ、各協力機関による13種の訓練ブースを設置。防災キャンプ参加者は、全員で放水体験やAED訓練を行った後、各自好きなブースを回ってもらうことにより多くの防災体験をすることができた。
11:00	防災キャンプふりかえり 主催者として生涯学習課職員があいさつ。 2日間の防災キャンプの感想を聞くとともに、実施後アンケートを実施。 解散

防災キャンププログラム3

【常滑中学校区防災キャンプ～「いざ」に備え、この街に笑顔と元気を！～】(常滑市へ再委託)

活動趣旨	大地震発生時に備えて、中学校を避難所とした防災キャンプを実施する。防災に関する講演会・話し合いを通じて、地域の絆の重要性を再確認し、体験活動から、地域の中で防災に関する知識・技能を持った人材を増やすことで、地域の連携・防災力の強化を目指す。
実施日	平成26年8月6日(水)～平成26年8月7日(木)
実施場所	常滑中学校
参加範囲	常滑中学校生徒・保護者・地域住民
参加人数	250人(宿泊は希望者のみ30人)

プログラム

日 時	プログラム
8月6日（水）	
12:30	職員集合 避難訓練開始 津波の危険がある道路を避けて学校へ避難する。 避難所開設 避難者を体育館に誘導。
12:40	受付開始 受付、避難者誘導（体育館）
13:00	講演① 南相馬市の方による講演 「廃校での避難所運営活動」 いちばん星南相馬プロジェクト理事長 星 巖 氏 「震災時の障害者自立支援施設の運営」 障害者自立支援施設所長 郡 信子 氏 「大震災から未来へ～生き抜く力を身につける～」
15:30	(講演①と並行して) 夕食の下ごしらえ

16:00	講演② 東北各地でボランティア演奏会を行っている方による講演とリコーダー演奏会
17:00	宿泊者以外帰宅 宿泊は希望者のみ (30人)
17:20	夕食づくり 宿泊者と防災ボランティアによる大釜の炊き出し訓練 (炊飯は大人で実施)
18:10	夕食 カレーライス、水 (500ml)
18:30	後片付け
19:00	緊急搬送訓練 常滑消防署の職員による救急講習会 毛布と棒を使った簡易担架での救急搬送法を講習
19:40	避難所運営講習 避難所運営ゲーム (HUG) を実施 *防災リーダー会、南相馬市の方からアドバイスを受ける
20:30	避難所生活体験 HUGの経験をもとに就寝場所の設営 (女性：会議室、男性：図書室)
21:30	就寝準備
22:00	消灯・就寝
8月7日 (木)	
6:00	起床
6:30	朝食づくり 大釜の炊き出し訓練 (炊飯は中学生が実施)
8:00	朝食 ごはん、みそ汁、のり、梅干し、水 (500ml)
8:30	後片付け 清掃、荷物整理
9:30	防災倉庫等見学 近隣の防災倉庫へ行き、備蓄等の見学、起震車体験
11:00	反省・アンケート
11:30	解散

4. 普及啓発の実施概要

活動名	平成26年度愛知県青少年防災キャンプ事例発表会
趣旨	防災キャンプの成果を普及するため、基調講演や事例発表を行う会を開催する。
実施期日	平成27年1月23日(金)午後1時から午後4時まで
実施場所	愛知県自治センター
参加者	75名(市町村行政関係者29名、学校関係者12名、防災団体等29名、 県生涯学習課職員5名)
プログラム	13:00 開会(生涯学習課長あいさつ) 13:10～ 基調講演 『命の学習』としての『防災学習』～共に生き、自ら動く、子どもたちを！～ 講師：名古屋大学減災連携研究センター・防災教育アドバイザー 独立行政法人国際協力機構(JICA)防災教育担当専門家 近藤ひろ子 防災教育を「命の教育」ととらえて、学校・家庭・地域が連携した地域ぐるみで動くことが重要。 子どもたちが「自ら考え、動く」ことができるよう、「学び」だけでなく、「心」、「トライ」の3つの視点で事業を考えることが必要。 自ら動ける人材の育成、みんなで一緒に防災に取り組む仕掛けづくりをしてほしい。 14:20～ シンポジウム「防災キャンプは何をもたらしたか？」 事例発表 東浦町防災キャンプ 東浦町防災キャンプ企画運営委員・東浦防災ネット代表 川井 美秋 氏 安城市防災キャンプ～地域と一緒に防災教育～ 安城市教育委員会生涯学習課 課長補佐 鈴木 勉 氏 常滑中学校地域防災活動～「いざ」に備え、この街に笑顔と元気を！～ 常滑市教育委員会学校教育課 主事 小出 直輝 氏 意見交換 コーディネーター 近藤 ひろ子 氏 パネリスト 川井 美秋 氏(東浦防災ネット) 鈴木 勉 氏(安城市教育委員会生涯学習課) 小出 直輝 氏(常滑市教育委員会学校教育課) 久野 公義 氏(常滑中学校教諭)

「防災キャンプに至るまでの各市町、学校の取組」と「今回の防災キャンプを今後どのように生かしていくか」という2点を軸に、会場の質問や意見を交えながら意見交換を行った。

多様な機関の連携・協働の苦労や地域全体での取組の推進、子どもたちの自主性を重んじたプログラムの創出、支援をする側としての中学生の育成など、活発な意見が交わされた。

幼稚園・保育園から高校までをつなぐ仕組みの創出、子どもたちに壁を乗り越えさせるプログラムの実施などの提案と、地域全体で考えること、自主性を重んじること、継続することの重要性がコーディネーターから示されてまとめとなった。

16:00 閉会(生涯学習課主幹あいさつ)

5. 成果と課題

(1) 事業成果

3市町の実施方法がそれぞれ全く違ったため、多様な事例が報告された。各地域に必要な防災の基礎知識を学び、被災時に役立つ地域のつながりを強めるとともに、避難所運営におけるリーダーや支援者の育成を意識したプログラムを作成・実施することができた。以前から本県では高校生を対象とした防災リーダー育成事業が実施されているが、今回の事例発表会で、地域社会を支える支援者として中学生を想定する流れができたのは、今後の防災教育の一つの方向性を示すと考えられる。

事例発表会については、全市町村からの参加は得られなかったが、ボランティア団体などからの参加が大幅に増えた。市町村行政に働きかけたり、ボランティア団体主体での実施が期待される。

また、昨年度、課題として明らかにされた「市町村行政における防災担当部局と教育委員会の連携の難しさ」を踏まえて、「多様な機関の協働・連携」と「避難所をリードする人材の育成」を意識して、基調講演やシンポジウムの内容についても講師(コーディネーター)と打ち合わせを重ねたこともあり、論点が絞られた意見交換ができ、また、参加者への意識付けもできた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

地域ぐるみで防災キャンプを実施する際の課題として、講義や実習を子どもと大人が混在する形で行う場合の工夫が挙げられる。とりわけ講義については子どもの中でも低学年と高学年は分けるなどの措置が必要かもしれない。それぞれの発達段階に合わせた学習ができるようなプログラムの工夫が必要となる。

また、事例発表会では、「自らの体験を通じて、自らが考え、判断する」という学習方法の導入が課題として挙げられた。

事前に参加者の意識を方向付けておかなければ、十分な成果を挙げられない。友だち同士での参加により「お泊まり会」のようになってしまったり、リーダーとして期待していたにもかかわらず参加者と同じことしかしなかったりということもあった。防災キャンプに至るまでの事前指導のあり方や学校教育との連携なども考えて、より効果的な実施を目指す必要がある。

(3) その他

県内において少しずつ「防災キャンプ」という形態が認知されてきたことを感じる。行政や学校が主体となるだけでなく、子ども会などで実施したという報告もあり、子どもたちの防災への意識づけのよい機会となっていると思われる。今後、3年間の事例を踏まえて、教育プログラムとして効果的な実施とともに、地域の絆をつくるための社会教育としても位置づけられることを期待する。

6. 団体プロフィール

愛知県教育委員会生涯学習課
青少年教育・女性指導支援グループ
〒460-8534
名古屋市中区三の丸3丁目1番2号



あいちの教育

教育は 未来へつなぐ 希望の輪